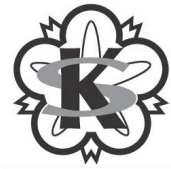




都立 小石川高等学校
・小石川中等教育学校



平成 2 1 年度学校経営計画

東京都立小石川高等学校
東京都立小石川中等教育学校
校長 栗原卯田子

1 目指す学校

- A 教育目標 「立志」「開拓」「創作」
「自ら志を立て（立志）、自分が進む道を自ら切り拓き（開拓）、新しい文化を創り出す（創作）」
- B 目指す学校像
- (1) 6年間一貫して体系的な教養教育を行い、生徒の自己実現を積極的に支援する学校
 - (2) 高い教育水準の維持・向上に努め、豊かな教養と高い学力をもつ生徒を育成する学校
 - (3) 行事や部活動を大切に、生徒が相互に磨き合い、豊かな人間力を育成する学校
 - (4) 生徒の自己管理能力を高め、生徒自ら自己の個性・能力を伸長する学校
 - (5) 各界のパイオニア育成を目指し、地域に信頼され、愛される「開かれた学校」
- C 育てたい生徒像
- (1) 現状に満足せず、高い志をもち、自らの個性と能力を自ら開拓する生徒
 - (2) 国際社会に生きる日本人として、豊かな感性と教養及び語学力を身につけた生徒
 - (3) 自然科学など様々な場面・分野で活躍できるリーダーを目指す志の高い生徒

2 中期的目標と方策

A 目標

- (1) 6年一貫の中等教育学校への改編であることから、開校から完成までの6年間（平成18年度から23年度）を中期と位置付け、目指す学校を実現するための教育計画を策定する。
- (2) 平成23年3月まで、併存する母体校と一体化して、人事組織を確立し、連携・協力して「小石川教養主義」に基づく教育活動を推進する。
- (3) 中学校でもない、高等学校でもない、中高一貫6年制学校「中等教育学校」として完成させ、特色を明確に打ち出して東京都が全国に誇れるパイロット校としての役割を果たす。

B 方策

- (1) 生徒に豊かな教養と確かな学力を身に付けさせる教養教育を展開する。
「理科好き、数学好きを育てる自然科学教育」「4技能の総合力を重視する英語教育」「新聞等を活用して読解力を高める言語文化教育」を特色ある教育活動として推進する。
- (2) 中高一体の職員室を活用し、分掌を中高一本化するとともに、経営企画室を経営企画型事務室として活用し、中等・高校・行政の一体化をめざす。

- (3) 東京都の中等教育学校として、教育課程、指導内容・方法及び教材等を全国に発信する。
- (4) 文部科学省の「スーパーサイエンスハイスクール」(SSH)の指定を受けている小石川高校と一体となって、SSH教育研究開発計画に基づいた教育を推進し、小石川中等教育学校として活動を継続していく。

3 今年度の取組目標と方策

平成21年度は小石川中等教育学校に初めて後期課程が展開される。創立90年の節目を経た小石川高等学校と合わせて「チーム小石川」として一体化した学校経営を行う。

(1) 教育活動の目標と方策

教育活動の重点目標の柱は次の3つとする。

- ① 学力向上 ② 進路指導充実 ③ 特色化推進 (SSH・国際理解・言語文化)

これらの教育活動においては、

- ①「生徒による授業評価」や「生徒の学習生活実態の調査」等のデータを活用するなどして、「校内研修会」を充実させ、授業力の向上を図る。
- ②本校で教育課程や自主教材等を開発し、中高一体となって積極的に進路指導充実を図っていく。
- ③「小石川」の伝統と特色ある教育を推進・充実させるため、文部科学省、紫友同窓会、(財団)紫友会、都教委、区教委、小中学校、大学等の関係機関や地域の諸団体、企業等と連携交流を深める。

移行期のため、高校と中等の両校にかかわる課題、1つの分掌では対応しきれない課題が多々ある。これらを解決するため中高一体化を一層推進する。具体的には、分掌の一体化、「チーム小石川」による実践プロジェクト、経営企画室との一体化を一層推進して、新しい小石川ブランドの創造を目指していく。

(2) 重点目標と方策 (チーム小石川実践プロジェクト)

今年度は特に、中高一体化して以下の8つの分野で目標・方策を立て推進していく。

学校経営・組織体制

- 目標：① 中高一体化をさらに推進し、将来の「小石川」の在り方を検討する。
② 「チーム小石川」による実践プロジェクトを推進する。
③ 企画室との連携を推進する。
④ 教育条件を整備し、安全で快適な学習環境を整える。

- 方策：①引き続き企画調整会議、職員会議を中高合同で開催するとともに、教務、生活、進路、総務の4つの分掌は中高合わせて1つ設置し、主任を2人配置する。
②実践プロジェクトは中高に関係なく教員を配置し、必要に応じて設置し、解消していく。
③実践プロジェクトには、必要に応じて経営企画室のメンバーを加えて、連携を図る。

特に、

- ①教育課程検討プロジェクトで、新学習指導要領への移行を検討する。
- ②行事検討プロジェクトで、学校行事の検討、学年行事の検討を行う。
- ③CALL推進プロジェクトで、LL教室をCALL教室に整備し、新規導入される装置の計画、および双方向型の語学ソフトを充実させ、活用を推進する。
- ④ICT推進プロジェクトで、新規導入されるICT計画の推進活動を実施する。
- ⑤国際交流推進プロジェクトで、国内語学研修・海外語学研修・海外修学旅行の一連の行事を企画、検討して系統化を図るとともに、関連して国際交流を推進する。

SSH推進

目標：SSH推進プロジェクトにより各種企画を行い、SSH推進委員会、SSH運営指導委員会を運営して、SSH推進事業を展開する。

方策：①科学技術週間の取り組み事業

- ②研修センター実践発表
- ③東京都合同発表会
- ④生徒研究発表会（全国）
- ⑤生徒研究発表会（本校）

学習指導

目標：すべての教科・科目で基礎・基本の徹底を図り、学力向上・体力向上を目指す。

方策：各教科で到達目標を明確にするとともに、学力・体力の実態把握に努め、生徒の実態に応じた独自の教材・指導法開発に努める。

- ①6年間の体系的な教育課程のもと、すべての教科で**基礎・基本の徹底を図る授業**を行う。
また、発達段階と習熟度の程度に配慮しつつ、計画的・継続的に**補充的学習と発展的学習**を積極的に行い、必要に応じて補習、講習を実施する。
- ②各科目のシラバスを作成し、本校生徒の実態に即した教材を作成するとともに、生徒による授業評価を行い、授業の改善・工夫に生かす。
- ③生徒に予習・復習等の学習習慣を定着させるとともに、読書やレポート等を課したりして、生徒が主体的に取り組む学習を充実させる。
- ④教科研究プロジェクトで、日々の授業研究と共に、大学入試問題の研究、シラバス・特講のあり方を研究する。
- ⑤課題研究プロジェクトで、中等3年次の「課題研究Ⅰ」をより発展させるとともに、次年度中等5年次に実施される「課題研究Ⅱ」のあり方を検討する。
- ⑥読書活動推進プロジェクトで図書館、教科、学年、企画室と連携を図り読書活動を推進する。
生徒の読書量がある程度見込めることから、今年度はより質の高い読書活動を推進する。
また、図書室の書籍等を充実させるとともに、メディア学習コーナーを活用して、図書室を知のセンター化する。
- ⑦日本学術会議や紫友同窓会、PTA等の支援を得て「小石川セミナー」「SSH講座」を開催し、自然科学をはじめとする各分野で、最先端の学問等にふれる体験・学習などの多様な教育機会を設けて、知的好奇心や志を高め、豊かで幅広い教養を身に付けさせ、生徒の個性、

能力の伸長を図る。

進路指導

目標：生徒が主体的に進路を選択できるよう、「在り方・生き方教育」として、「キャリア教育全体計画」を推進して発達段階に即した計画的で系統的な進路指導を行う。

方策：①進路指導部と学年が連携し、生徒の自己実現を積極的に支援する進学指導を行う。

②生徒・保護者の進路希望を把握する。

③**大学入試研究プロジェクト**で、生徒が希望する大学への進路実現のために、生徒の学力実態把握と入試問題の研究を行い、小石川の進学実績向上を図る。また、教科研究プロジェクトと連携して進路指導部や学年だけでなく全教職員の指導力向上を図るため、校内研修を実施する。

④生徒の進路希望に応じられるよう、進路資料の整備・充実を図るとともに、二者面談や三者面談など定期的にきめ細かな進路相談・指導を行う。

⑤土曜日及び長期休業日の有効活用を図り、進学向け補習や講習を実施する。

⑥大学教授の出前授業を実施するとともに、生徒に大学の研究室訪問や大学体験入学等への参加を積極的に勧める。

生活指導

目標：生徒に**基本的な生活習慣やルール、マナーを確実に身に付けさせ、生徒の自己管理能力及び品格を高める。**

方策：①生活指導検討プロジェクトで前年度末に策定した『方針』に則って生活指導を実践する。

②日常の授業を通して、挨拶の励行、時間厳守、公私のわきまえなど、自律的な生活態度・姿勢等を習慣化させ、生徒の自己管理能力を高める。

③特に前期課程では、道徳の時間、学級活動等を活用し、いじめのない豊かな人間形成の場をつくるとともに、体験学習等の行事、部活動、学年集会等を通して思いやりの心や奉仕の精神を育成する。また、人権教育年間指導計画を策定し、人権尊重と心の教育を充実させる。

④前期、後期の生活規律について、引き続き**生活指導検討プロジェクト**で実践的に検討する。

特別活動・部活動

目標：行事や部活動など自主活動を積極的に行わせ、リーダーシップを発揮できる心身共に健康で人間性豊かな生徒を育成する。

方策：①行事や委員会・部活動等において、生徒の主体的な活動を見守り、生徒の主体性と創造性を喚起、育成する。これらの経験を通して、生徒が自ら考え自ら判断し、集団の中で積極的に働くリーダーの素養を育成する。

②行事を地域等に公開するとともに、部活動では各種大会に積極的に参加させ、他校等との交流を活発にさせる。

③**部活動推進プロジェクト**を立ち上げ、中高一貫校としての部活動のあり方を検討する。また、部活動の場所、中等教育学校生の活動場の確保について検討する。

健康づくり

目標：心身共に健康な生徒を育成する。

方策：①学校保健計画を作成し、生徒の心身の健康と体力の維持・向上を図る。

- ②学習環境の整備と美化に努め、健康の自己管理に努めさせる。
- ③関係機関と連携してセーフティー教室を実施するなど、安全教育を推進する。
- ④SC活用事業推進プロジェクトを立ち上げ、スクールカウンセラー（SC）と家庭と学校が連携し、中高の発達段階に応じた課題を全体で、また、個々に解決していく。
- ⑤給食運営プロジェクトで中等前期課程の給食運営を検討するとともに、給食を通じた食育を推進する。

募集・広報 地域交流

目標：「地域が誇りとする学校」として小石川高等学校、小石川中等教育学校の広報に努める。また、中等教育学校の入学選抜の応募倍率を維持する。

方策：以下のプロジェクトが中心となって本校教育の特色とよさを理解してもらう行事を企画し、中高一体の全校体制で実施する。

①募集対策推進プロジェクト

- ・学校説明会（進路相談会）プロジェクト
- ・適性問題解説プロジェクト
- ・学校案内作成プロジェクト
- ・小学校・塾等訪問プロジェクト

②キャリア教育推進プロジェクト（地域交流）

職場訪問、職場体験、社会参加（奉仕）の活動を通して地域社会に積極的に溶け込み、社会参加の意識を高め、進んで社会に貢献する姿勢・態度を養う。また、小学校や中学校、社会施設等と連携・協力して「魅力ある学校づくり」に繋いでいく。

③ホームページ担当プロジェクト

ホームページを充実させて積極的に情報を発信し、本校教育の特色と良さを理解してもらう。

④学校開放事業を推進し、公開学習講座や講演会等を実施するとともに、グラウンドや会議室等の施設を開放する。

<数値目標>：大学入試における、今年度及び次年度の数値目標

- ・ センター試験実質受験率 高校3年在籍者の85%以上
(前年度目標 70% 実績 80%)
- ・ 国公立大学合格者 センター試験受験者の25%以上

<数値目標>：中等教育学校完成に向けた、今年度の数値目標

- ・ 学年末までに 中等2年生で 英検 3級以上を取得する。 100%
(前年度実績 95%)
- ・ 学年末までに 中等3年生で 英検準2級以上を取得する。 90%以上
(前年度実績 89%)
- ・ 学年末までに 中等4年生で 英検 2級以上を取得する。 80%以上
- ・ 学校図書館の貸し出し数（中高合わせて1人あたり） 年間9冊以上
- ・ 学校説明会・授業公開・体験授業等の来校者数目標 6000名
- ・ 外部学校説明会等（含個別）の来場者数目標 4000名
- ・ 中等教育学校の入学選抜における応募倍率 8倍